

日本看護系大学協議会
会長 井部 俊子

看護基礎教育の大学化について

このたび、「看護基礎教育のあり方に関する懇談会」において、看護基礎教育を大学教育に移行するという一定の方向性が示されたものと考えます。

日本看護系大学協議会は、1974 年に発足し、「看護系大学相互の提携と協力とによって学術と教育の発展に寄与し、看護学高等教育機関の使命達成に貢献することを目的」（規約第 2 条）として活動している組織であります。現在、全看護系大学と省庁大学校が加入しています。

日本看護系大学協議会では、1999 年、2000 年、2006 年に見解を表明し、看護職の基礎教育をすべて大学レベルに一本化することの意義を主張してきました。学生に教養科目を含めた学際的な考え方を培い、専門領域についての知的・倫理的準備性を高め、さらに学問に裏打ちされた応用力を付加することを目的としたプロフェッショナル教育の基礎は、大学においてこそ達成可能であります。

社会学者であったエスター・ブラウンが『これからの看護』（小林富美栄訳、日本看護協会出版会、1966 年）を著し、看護基礎教育の黎明期において、「専門教育に精通している人々は、専門職業看護師の育成には、高度の教育機関が必要であることに異議を唱える人はほとんどない」とし、看護師養成は大学で行うべきと提言しました。この提言をきっかけに、米国では大学教育が押し進められたのです。この有名なブラウン・レポートは、1948 年に出されています。

我が国においても、1992 年の看護師等人材確保法制定以降、看護系大学は増加し、2008 年現在 167 校となり、大学院も 106 校（修士課程 109、博士課程 46、専門職学位課程 1）になっています。今後も、看護系大学は、学部・大学院ともに増加すると予測され、看護基礎教育の大学化を推進する土壌は整ったと考えます。

日本看護系大学協議会は、看護基礎教育を大学教育に移行するにあたり、以下の点で貢献できるものと考えます。

1. 看護系大学新設・増設に向けた貢献
 - 看護系大学院の拡充による大学教員の養成
 - 新設大学・学部に対する大学運営に関する知見の開示
2. 生涯教育への貢献
 - 看護専門職に対する生涯教育のための適切な学習環境の提供と学習支援
 - 看護師養成所の卒業生に対する学士号取得への移行教育
 - 地域市民への看護知識の提供
3. 看護系大学における教育の質保証
 - 看護系大学・大学院におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）
 - 相互評価等による看護学教育課程の洗練とモデル・コアカリキュラムの開発
4. 卒後の新人看護職員研修等へのサポート
 - 研修の場の提供
 - 研修プログラムの開発と学習支援

日本看護系大学協議会は、看護基礎教育を大学教育とすることへの決断と推進を強く求めるものであります。